

平成23年度第3回文京区景観審議会での主な意見と対応について

1 平成23年度第3回文京区景観審議会での主な意見と対応について

番号	景観審議会での主な意見		対応
1	都市マスとの関係	今回の景観計画骨子（案）と都市マスタープランとの関係はどのようになっているのか。都市マスタープランの中には地域別の方針というのがある、大きく5つの地域に分かれていると思う。そういう流れは、この景観計画でも考えていくのか。	今回提案している骨子（案）では、一般基準、景観特性基準、地区限定基準といった3点の視点に立って決めていきたいということで、特にこの都市マスタープランの区分けに基づいて決めていくといった考え方はありません。
2	景観特性「骨格」の捉え方	<p>文京区はひだ状に高い台地と谷があるということが「骨格」というのではないか。全区的なスケールで地形がつくる特性があるのではないか。</p> <p>骨子（案）でいわれている「骨格」というのは、河川や幹線道路という、体に例えると骨ということでこういう表現になっていると思うが、普通、景観の特性の「骨格」というと、中心的なものと一緒にイメージすると思う。「骨格」という表現に違和感を持った。</p> <p>明確に「神田川、幹線道路などを骨格として」と説明した方が分かりやすい。P.31は「幹線道路は、都市の骨格を形成する」と始まっているが、もう少し広がりのある形で説明していただくと良い。</p>	<p>「骨格」は、幹線道路と神田川をイメージしており、それらは明らかに景観特性として認識できるものだと考えております。それらを際立たせていくためのランドマーク等について、基本方針4に6点記載しているのが「骨格」という位置付けです。</p> <p>より主旨を分かりやすく示すため、第1章「文京区の景観の特性」を修正しました。 ■p.5、17</p>
3	景観特性「活動」の捉え方	第1章と第2章に「活動」とある。「はじめに」に、「人々の活動や営みも景観の中に含まれる要素」とあり、第1章では、清掃している団体が幾つかあってと書かれているが、そういうことと同時に、もう少し広く「活動」を捉えて表現、方針化できないものかと感じた。	「活動」については、目で見てモノがあるだけではなく、そこに人がいて、イヌやネコもいて、活動があり、賑わいがあることが、景観として意味があると考えています。景観には、そういった生活感などをイメージしたアクティビティが必要であると考えています。

			ただし、人の活動に対して基準をつくるということではなく、景観の概念として捉えたいと考えています。
4	現時点の評価	現時点の景観のあり方をどう見られているのか。平成22年までの11年間で1,179件の協議を重ねて、法も整った訳だし、景観行政団体に移行していく必要があるということで、基準も一定のものをつくってそれに従ってより良くしていくことになると思うが、現時点の評価がどうだからもっとこうしなきゃいけないという、もう一步、現在の状況の評価が欲しいと思ったがいかがか。	都市マスタープランp.10にも掲げておりますが、景観の普及啓発については、都市景観賞やまち並みウォッチングなどの事業を行っております。 また、景観法の制定前から、11年間という長きにわたって、景観事前協議を行い、成果が上がっていると考えております。 今後は、これまで行ってきたものをベースにしながら、法に基づいた指導・誘導により、より厳しい景観指導・誘導を行うことによって、さらなる効果を出していきたいと考えております。
5	表現方法	子供等に対しても、より分かりやすいように伝えていって欲しいといった意見があったと思うが、それに対して、区の考えがどういう心持ちがあるのかを伺いたい。	景観計画であるため、どうしても表現は硬くなりますが、例えば、周知に使うパンフレット等の配布するものは、分かりやすい表現で伝えていくというやり方が良いと考えております。
6	全体について	区の思いが、未来の文京区像が明確でないと区民には伝わらないのではないかと。どうして計画をつくるのか、そして皆でつくるといったことも含めてどうやって話し合っていくのかということについての区の思いが、この計画の何処で区民に伝えればいいのか伺いたい。 区の考えていること、どういうものをつくろうとしているかをもう少しはっきりとメッセージとして伝える必要がある。	この景観計画において一番伝えたい部分は、景観形成基準であると考えています。景観計画に考え方は書いてありますが、その考え方を実現するのは景観形成基準です。 まだ骨子の段階であるため、内容については謳っておりませんが、最終的には具体的に書き込むこととしております。

7	地域の ボトムアップ力	<p>個々の場所を誰がどう考えていくのか。住んでいる人なのか、そこに興味がある人なのか、その周りの人なのか、その個々を考えていく人がどこに存在するのかというような、個々の場所をどのように考えられていくのかを伺いたい。</p> <p>区民に伝わったところからまず一歩が始まって、地域力、ボトムアップで自分たちがこのまちを守るのだ、つくるのだというのを、いかにこの計画で発信できるか。地域の方が、この計画を受け止めて、自分たちで何とかしなければ、頑張ろうかな、とならなければいけない。地域のボトムアップ力が育つようなものを期待する。</p>	<p>地元からのボトムアップが大切であることについては、ご指摘のとおりです。</p> <p>ただし、景観計画をつくっただけで、地域の方々との景観づくりの関心を高めていくのは、直ちに簡単にはいかないと考えております。</p> <p>景観計画で重要なのは、景観形成重点地区であると考えています。重点地区の基準は、地域の方々と話し合いをしながら中身を詰めて、具体的なことを書き込めると考えております。それを実行することで、モデル地区として、他の地域にも波及していくというイメージでおります。</p>
8	界隈について	<p>現在の景観基本計画では、それぞれの界隈の中に地形があり、まちの歴史があり、個性的なまちのまとまりがあり、まちの骨格構造という項目立てになっていた。</p> <p>今回の景観計画では、界隈を景観特性に改めたということだが、これは2次元のものを3次元にしたというか、何かレベルの違うものに移した感じが拭えない。界隈のまとまりがなくなったので、界隈をやめて景観特性にしたという感じがする。この景観特性に「活動」があるのが良く分からず、景観計画の構成が良く分からない。</p> <p>景観計画でまちを守っていこうという区の意気込みは分かるが、そのときに何をしたら良いのかが見えない。今後、基準をつくる時に明確に出して欲しい。</p>	<p>現在の景観基本計画における19界隈の中には、必ずしも界隈としての景観特性が明らかでないものも含まれていると考えており、今回の景観計画では、坂や歴史的資産などの景観特性による景観形成をしていきたいと考えております。</p>
9	「はじめに」について	<p>この骨子（案）をもう少し分かりやすくという気持ちというか、インテンションでやっていただけると良い。特に「はじめに」が、いきなり全部文章で</p>	<p>検討させていただきます。</p> <p>今後、素案を検討する際に、図版やイラストなどを活用し、視覚的に理解しやすい工夫を行います。</p>

		始まるが、少しビジュアルを入れるなどの工夫ができれば良いと思う。	
--	--	----------------------------------	--